

本音の コトバ



日本のODA（政府開発援助）はさながら、独立行政法人の国際協力機構（JICA）の「独壇場」状態。他方、海外では、ノーベル賞を受賞した国境なき医師団やICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）等の大規模

かわむら さゆり
河村 小百合

NGO（非政府組織）が、各国政府とは一線を画して活動し、国際社会でも支持を得る。民間資金比率九割超の団体もある。日本にも国際的なNGOは存在するが、海外とは職員数も予算規模も二桁違うこともあるのが実情。寄付は限られ政府資金への依存度は高い。去る十月末、NGO・外務省定期協議会でNGO側が配布した資料の冒

戦後最大の人道危機

頭の見出しには「戦後最大の人道危機に何をすべきか」。日本にも現地の事情に精通し、緊急人道支援を含め、きめ細かく活動するNGOが小粒ながら存在する。彼らには課題も多いが、間違いなく日本からの「顔の見える支援」の一翼を担う。アジア各国をはじめとする新興国の成長ぶりも著しい今日、ODAはかつての「開発途上国の経済発展の支援」から、「人間の安全保障」「人道支援」に軸足を移しつつある。しかしシリアが、ミャンマーが、あれほどの事態に陥りながら、この国では人道問題への関心がどうも薄くはないか。NGOをもっと育て、JICA一辺倒とならないODAを進めるには、国民の問題意識と理解こそが鍵を握るだろう。（日本総研上席主任研究員）

2018.12.6

東京新聞朝刊2018年12月6日付